

【テーマ】

「学修成果のさらなる可視化 デジタル証明書 ～オープンバッジの活用について～」

【主催】教育システム分科会

活動報告

日時：2022年7月11日（月）15:00 -17:00
場所：オンライン分科会
出席者：64名

1. 研究内容

「学修成果のさらなる可視化 デジタル証明書 ～オープンバッジの活用について～」をテーマとして、教育システム分科会主催のオンラインイベントを開催しました。

当日は、まずはじめに、一般財団法人オープンバッジ・ネットワークの吉田様より開催テーマに関連してオープンバッジとは何か、オープンバッジの民間での活用や大学における活用の事例をご紹介いただきました。

イベント後半は講演を受けてのグループワーク（意見交換）と講演者への質疑応答などを行い、事例や課題等に関して共有する場となりました。

（内容詳細については「3項概要レポート」をご参照下さい。）

2. スケジュール

15:00 分科会開始

○開催挨拶

○ご講演「学修成果のさらなる可視化 デジタル証明書 ～オープンバッジの活用について～」
一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク 常務理事 吉田 俊明 様
（株式会社ネットラーニングホールディングス 取締役副社長）

○グループワーク（意見交換）

○全体会

- ・各グループの意見交換内容を参加者に共有
- ・講演者（一般財団法人オープンバッジ・ネットワークの吉田様）への質疑応答及び意見交換

○終わりの挨拶

17:00 分科会終了

「学修成果のさらなる可視化 デジタル証明書 ～オープンバッジの活用について～」

私立大学キャンパスシステム研究会教育システム分科会が、7月11日にオンラインで開催されました。今回は、一般財団法人オープンバッジ・ネットワークの吉田俊明氏をお招きし、オープンバッジとは何か、オープンバッジの民間での活用事例等をご紹介します。その後グループに分かれて意見交換を行い、その全体共有と質疑応答を行いました。

まず分科会運営委員長の清泉女子大学与田氏から、開会の挨拶と進行の説明がありその後講演に移りました。

■ 講演：

「学修成果のさらなる可視化 デジタル証明書～オープンバッジの活用について」 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク 常務理事 吉田俊明氏の発表より

○ 多様な学びや経験を表現するために、「学歴」から「学習歴」へ

一般財団法人オープンバッジ・ネットワークは、私が副社長を兼務している株式会社ネットラーニングホールディングスという企業が拠出して2019年11月に設立されました。2020年4月にサービスを開始し、会員は現在手続き中も含め138団体で、正会員、学校会員、連携会員等から構成されています。

オープンバッジとは、「学習にまつわる知識、経験、スキル、資格等を客観的に証明するデジタルツール」で、デジタル証明の一種です。例えば、認定証、表彰状、資格認定、免許、履修証明、単位証明、セミナーの参加証明等をデジタルで証明します。海外ではボランティアの参加証明等にも使われています。

背景には、時代に合わせて「学歴」から「学習歴（学修歴）」へと、考え方を変えていく必要性が挙げられます。リスキリング、アウトスキリング、人材の流動化等のグローバルな潮流に対応するため、また人生100年時代に、20歳前後の一時期にどの教育機関で学んだかだけで残りの80年を判断されないために、学習歴を可視化、標準化することが必要です。「A大学B学部C学科を卒業した」という学歴だけでは、その人の多様な学び、経験、豊かな知識を表現するには限界があります。

オープンバッジとは ～ 「学歴」から「学習歴」へ



認定証
表彰状



資格認定
免許



履修証明
単位証明
(学位記)



セミナー
参加証明

リスキリングの時代といわれるようになりました。人生は100年と長期化する一方、時代の変化は加速するという中で、20歳前後の一時期にどの教育機関で学んだということだけでは、一生対応していくことに限界があるということが背景にあります。

そのニーズにこたえるための学びの手段も、インターネットの普及によって実にさまざまな形で提供されるようになりました。また、その学びの単位も学位のような体系化されたものから、仕事をしながら学べるマイクロラーニングのようなものまで多種多様になっています。それらを学習者自身で**いろいろ組み合わせ、知識やスキルを身につける**ことができるようになってきているのです。

しかし、多種多様で个性的に組み合わせたスキルには一律的な名称がありません。そこで、それらの**学習歴**をわかりやすく明示する、つまり、**可視化**する必要性が生まれてきているのです。

オープンバッジは、人の目にもコンピュータにも**可視化**された「**学習歴**」として、重要な役割をになうと私たちは考えています。

当財団のオープンバッジサービスは、IMS Globalが規定するOpen Badge v.2.0において適合性認定を受けており、人間が見て分かりやすいだけでなく、コンピューターでも扱いやすい、マシンリーダブルなバッジです。この規格に則っていれば、世界中の学校等で発行されたバッジを、1つのウォレットで管理できます。

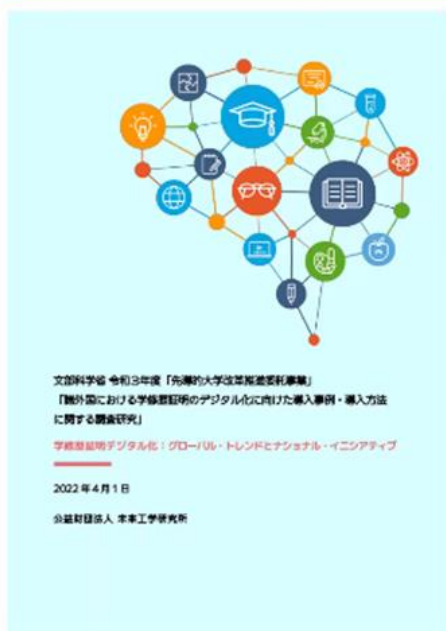
この規格に則って日本で管理しているのは当社だけとなり、アジアでも当社が唯一と認識しています。データは日本国内で安全に管理しており、日本のお客様、大学に自信を持ってお勧めしています。

○文部科学省の報告書やデジタル庁でも、オープンバッジに注目

今年4月に、文部科学省の「先導的・大学改革推進委託事業調査研究報告書」が公開されました。これは、国内の大学等における学修歴証明のデジタル化施策を検討・実施するために、文部科学省が外部団体に委託して調査された報告書です。

[「諸外国における学修歴証明（卒業証明や成績証明等）のデジタル化に向けた導入事例・導入方法に関する調査研究」](#)：文部科学省 (mext.go.jp)

文科省 学修歴証明のデジタル化へ



提言

1. 共通の**技術標準・方式の利用促進**
2. ベスト・プラクティスの周知と情報共有
3. 官公庁や企業等でのデジタル証明の活用促進
4. 教務情報システムとの連携開発の推進
5. 大学共通プラットフォームの構築
6. 企業のオープン教育ネットワークでの相乗効果の創出

提言で推奨された技術標準・方式

- ① PDFデジタル署名（データ埋め込みなし・あり両方式）
- ② **Open Badge 2.0**
- ③ 包括的学修歴データ形式（CLR）
- ④ 検証可能証明データモデル（VCDM）
- ⑤ 非中央集中ID（DIDs）

報告書では、デジタル証明書で先進国（米国、中国、韓国等）の取り組みを紹介しつつ「デジタル証明については技術標準に則って推進することが効果的、効率的」だと提言しており、その主な技術標準・方式として以下が挙げられています。

- ① PDFデジタル署名（データ埋め込みなし・あり両方式）
- ② Open Badge 2.0
- ③ 包括的学修歴データ形式（CLR）
- ④ 検証可能証明データモデル（VCDM）
- ⑤ 非中央集中（または非中央集権）ID（DIDs）

下にいくほど、複雑で実装が難しくなります。①はシンプルな技術で現在すでに利用されています。

②オープンバッジについては、実際のサンプルをご覧ください。

[Open Badge Wallet \(netlearning.co.jp\)](http://netlearning.co.jp)

基本的にはバッジ（デザインファイル）があり、名前、説明、いつ誰向けに授与したのか、そのほか補足説明等がデジタルで記載できます。

③CLRはComprehensive Learner Recordの略で、訳すと「包括的な学習者の記録」です。現在米国で規格化が議論されているところですが、今後日本で普及するかは未知数です。

④VCDMは自己主権アイデンティティ (SSI) の思想に基づく検証可能証明データモデルだそうですが、まだあまり一般的ではないと思います。

⑤DIDsは、Decentralized Identifiersの略で、IDをどこかで集中管理するのは間違っているという考え方です。日本語では非中央集中型（非中央集権型）IDと言い、ブロックチェーンとも似ています。

次にデジタル庁での動向をご紹介します。今年1月に公開された、「教育データ活用ロードマップ」にオープンバッジの記載があります。

[教育データ活用ロードマップを策定しました | デジタル庁 \(digital.go.jp\)](#)

学修歴証明（卒業証明や成績証明等）や、生涯にわたる学びの環境整備の中で、「オープンバッジ等の在り方についても検討を進めていく」と提言されています。さらに、デジタル庁が推進する「デジタル推進委員」に認定されると、オープンバッジが付与されることも発表されました。

このように、文部科学省の報告書やデジタル庁でもオープンバッジに注目していることが分かります。

○オープンバッジには口コミ効果や学習意欲向上効果も

我々、オープンバッジ・ネットワークのミッションは、「オープンバッジの普及推進」、「オープンバッジの品質保証」だと考えています。品質保証に関しては入会時に財務状態等も含めて審査しています。現在、バッジの累計授与数は約20万個で指数関数的に伸びていますが、そのバッジの質を保証するためにタクソミー（分類）についてのワーキンググループを準備中です。

ここからは事例をご紹介します。横浜国立大学では、YNU Spring Program（2022年2月開催）参加者に発行するバッジデザインを学生から公募しました。現在、バッジに細かい規定はなく、学生さんが可愛らしくデザインしてくれました。

次の事例はTOEICです。日本での実施団体IIBCが、TOEICの成績優秀者に対して、Award of Excellenceとして、オープンバッジを授与しました。受賞した方が、SNSに投稿するなど、口コミの宣伝方法としても一役買っています。

そのほか、導入した大学からは、学生の学習意欲向上にも有用だとのフィードバックをいただいています。

■留学生への証明書発行や、業務効率化に期待の声

その後5つのグループに分かれて意見交換を行った後、全体共有と吉田氏への質疑応答が行われました。いくつかピックアップしてご紹介します。

「膨大な量の学位管理を、オープンバッジで効率化できないか。また、証明書発行機で発行している学位証明を、オープンバッジにできないか」との質問に対し、「どちらも現在、検討中。教務システムや学籍管理システムとの連携や、LMSとの連携等についてもご相談ください」とのことでした。

「オープンバッジは学位記に変わるものか。それとも新しい付加サービスと考えるべきか」という質問には、「移行期には並行運用することも考えられる。オープンバッジはシンプルなシステムでコストも安いので、並行運用も十分可能だと思う」との回答がありました。

また、「デジタルで証明書を発行しているが利用率は低い。理由は、例えば就職活動の際に会社側が受け入れてくれないからで、わざわざ印刷してスキャンしている学生もいる」との課題も挙げられました。さらに「留学生が帰国後に証明が必要になった際には、このような仕組みは非常に有効だと思う」との意見もありました。

結びに分科会幹事の共立女子大学)湯浅氏から「今回は様々な生の情報や最新情報を入手でき、非常に有意義な会になったと思います。オープンバッジが普及すれば、大学の正課・正課外の活動が証明できるようになり、業務の効率化という面でも期待が持てます。本日はありがとうございました」と述べ閉会となりました。

4. 参加校 [19校31名] ・参加企業[7社33名] ・参加総数[64名]

大分大学[1] 関西国際大学[3] 関西大学[3] 関東学院大学[1] 京都芸術大学[1] 京都産業大学[1] 共立女子大学[6] 芝浦工業大学[2] 順天堂大学[2] 尚綱学院大学[1]	城西大学[1] 清泉女子大学[1] 専修大学[1] 拓殖大学[1] 名古屋学院大学[2] 文京学院大学[1] 明治大学[1] 名城大学[1] 流通科学大学[1]	一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク[2] 株式会社セールスフォース・ジャパン[1] ダイロン株式会社[3] テクノシステム株式会社[1] 富士電機ITソリューション株式会社[1] 富士通Japan株式会社[24] 有限会社ハーティサービス[1]
---	--	---

5. 所感（教育システム分科会運営委員会）

オープンバッジの概要、活用について具体的な事例を含め、興味深いお話を聞くことが出来ました。事前アンケートの結果では、参加された皆様のオープンバッジに関する知識は「聞いたことはある」が多数でしたが、自大学で実際に展開するにどのような活用方法が考えられるのか、かなり具体的なレベルで想像が出来たのではないかと思います。後半のグループワーク時にも講演の内容を受けて、より具体的な問題点/疑問点について意見交換を行うことが出来ました。続く質疑応答において、この問題点/疑問点を全体で共有するとともに、講演者からのフィードバックも得ることが出来、オープンバッジに関する理解が「聞いたことはある」より数歩進んだのではないのでしょうか。

【分科会の様子】



【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。また、今回の分科会開催に際し、事前アンケートを行っています。事前アンケート結果につきましても、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しております。

「CS研・IS研情報交換サイト」について

- CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をする会員専用のサイトです。（新規入会ご希望の方は、右下の事務局まで、お手数ではありますがご連絡ください。）

URL : <https://www-std01.ufinity.jp/csisken/>

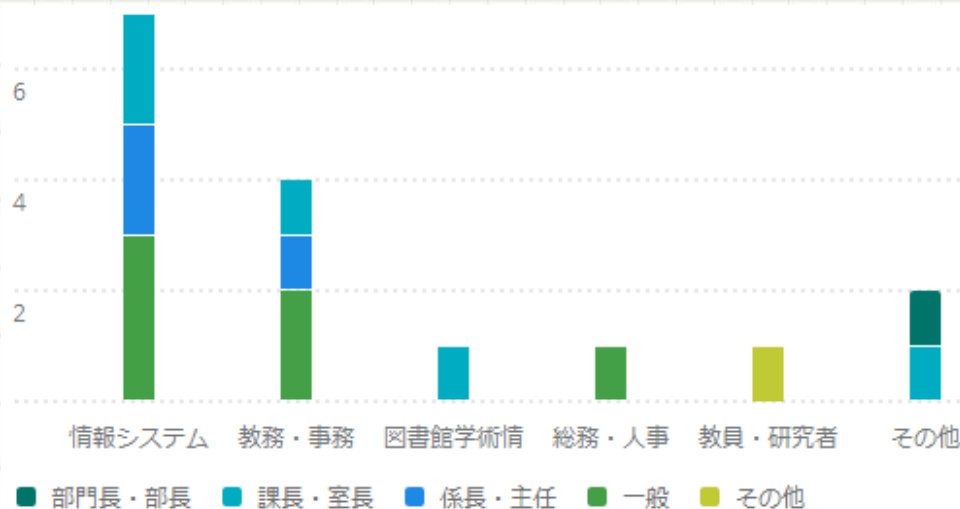
- 情報交換サイトをご覧になるにはIDとパスワードが必要となります。お持ちでない場合は以下のサイトにてお申込みください。
お申込みサイト : <https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/46757>

【連絡先】

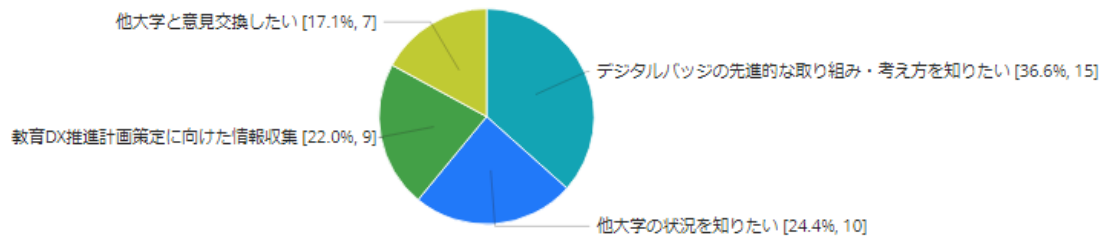
私立大学キャンパスシステム研究会 事務局
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士通Japan株式会社 戦略企画統括部内
E-mail : contact-csisken@cs.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果【回答数／対象者数：17／31（大学関係者のみ）】

■担当業務と役職について

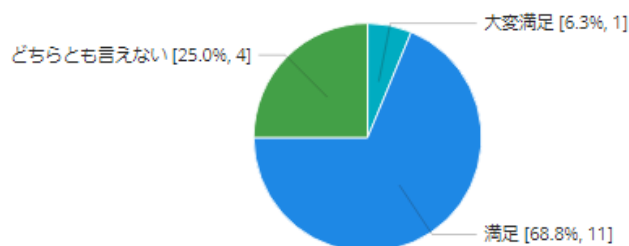


■参加した目的について



■ デジタルバッチの先進的な取り組み・考え方を知りたい
 ■ 他大学の状況を知りたい
 ■ 教育DX推進計画策定に向けた情報収集
 ■ 他大学と意見交換したい

■本日の分科会の全体満足度について

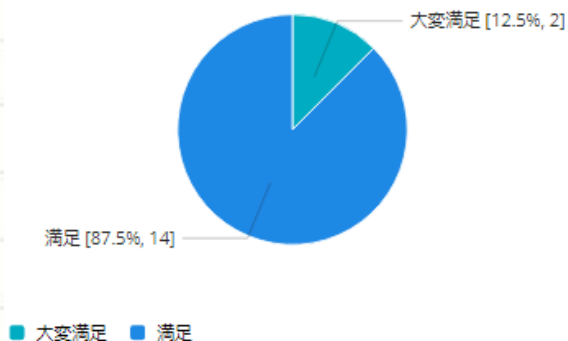


■ 大変満足
 ■ 満足
 ■ どちらとも言えない

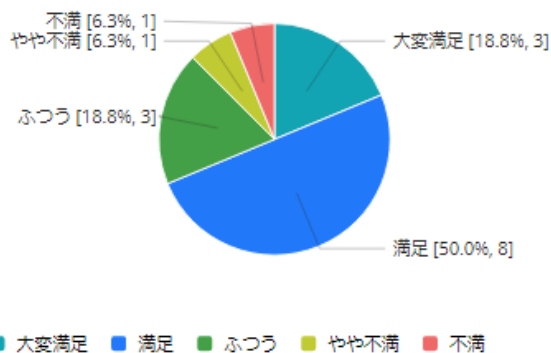
■全体満足度の評価理由について（抜粋）

- 成績証明書のデジタル化についてももう少し知りたかった。
- 導入に向けて検討中だが、他大学の皆さんの意見を聞くことができ、今後の参考になったため。
- 同じような悩みや課題を持った他大学の方とお話できたことがよかったです。今後も情報共有等したいと思います。
- 講演いただいた内容がニーズとマッチしていなかったため。ただ、グループワークは活発に行え、質疑応答はとても良かったと思います。
- オープンバッジの考え方やオープンバッジ・ネットワークの立ち位置が理解できた。
- これまで漠然としていたオープンバッジの目的や活用シーンが大まかにイメージできました。
- 他大学の状況や意識、現状の取り組みを知れた。
- 高等教育機関での活用事例についてももう少し細かく知りたかった。

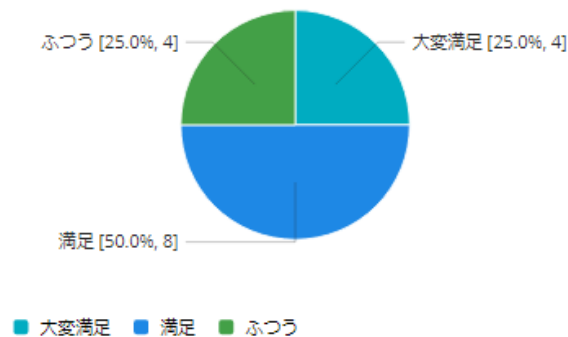
■満足度－開催テーマについて



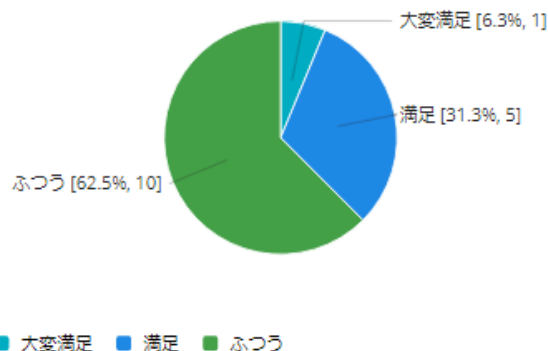
■満足度－オープンバッジ・ネットワークの講演について



■満足度－意見交換について



■満足度－時間配分について



■次回以降取り上げて欲しいテーマについて（抜粋）

- 学内への説明方法、具体事例
- ペーパーレス化・デジタル化を課題としている大学は多々あると思いますが、個人的に気になっている点は以下の2点です。職員側ですとペーパーレス化に関する事例や解決案 学生側は、入学手続きに関するペーパーレス化からの学生証のデジタル化